

事務事業名	20807 西部福祉センター管理運営費													
担当組織	福祉部				福祉総務課				担当	西部福祉センター				
組織コード	H30	17	01	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	03	01	06	02	01	記入日	平成30年06月02日
	H29	17	01	00		H29	01	03	01	06	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち										● 対象 ○ 対象外
分野	03	参加型地域福祉										
施策	18	地域福祉の推進体制づくり										
事業期間	昭和47年度～平成32年度											
根拠法令 通達等	戸田市立福祉センター条例				関連計画 施政方針	戸田市第4次総合振興計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの											
対象	市内在住、在勤・在学者											
事業目的	福祉センターの会議室を、自主サークル活動等のために貸し出すことにより、市民の交流や文化の向上を図る。「いこいの室」等の運営により、高齢者の社会参加支援や交流を図る。											
事業内容	60歳以上の市民が利用する「いこいの室」において、映画会・カラオケ大会等を実施。また、会議室等を市民で構成する各種サークル等に貸し出し、市民の交流や文化の向上を図る。利用者の安全に配慮し、施設設備や備品の経年劣化による不具合、故障が生じた時は、修繕や交換を適時実施していく。											
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()											

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		31,598	32,792	32,792	32,792	32,792	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	787	787	787	787	
	一般財源		31,598	32,005	32,005	32,005	32,005	
	人件費		12,621.51	14,345.76	14,345.76	14,345.76	14,345.76	
	投入 人員	常勤職員	1.83人	2.08人	2.08人	2.08人	2.08人	
		非常勤職員	0.13人	0.13人	0.13人	0.13人	0.13人	
事業費+人件費		44,220	47,138	47,138	47,138	47,138		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動①	開館日数	日	年間開館日数		335	334	338
						333	334	-
	成果①	延利用人数	人	年間貸室及びいこいの室 利用者数		23,000	23,000	23,000
						22,195	23,250	-
	成果②							-
							-	
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 平成29年度の利用者数は前年度より増加した。「いこいの室」の利用者が増加したことや大会議室を大人数で利用する団体が定期的に貸室を利用したことが目標値を上回った要因と思われる。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 地域の高齢者をはじめ、子育て世代、学生と幅広い年齢層の方達に利用され市民の交流の場として活用されている。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 施設・設備の老朽化のため、計画的に修繕を実施し、施設の維持管理に努めている。また設備等の保守点検委託業務を定期的実施し利用者の安全確保に努めている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 施設を利用される方の安全を考え、老朽化している設備の修繕を行い環境整備の向上に努めることにより、高齢者の地域福祉向上に寄与している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	C	B	B	<判断理由> 受益者負担の公平性の観点から、戸田市福祉センター条例の一部改正を行い免除規定の削除を行った。各種団体及び公民館育成サークルへの説明会を行い周知に努めた。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	公共施設予約システムの導入から3年が経過することに伴い、利用者登録カードの更新手続きに向け、予約システム導入関係各課との調整を行い予約システムが適正に運用できるよう努めた。いこいの室利用者登録ルールを抜本的に見直した。また、施設の老朽化した備品の入替を行い施設の安全管理に努めた。
見直しの効果	公共予約システムの稼働により、統計業務等の効率化を図ることができた。いこいの室利用者登録ルールの抜本的な変更により、利用実体の把握と、利用者の安全確保のための仕組みができた。施設の修繕を実施したことで利用者の安全が確保され、また利用者のニーズにも応えることができた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 幅広い年齢層に利用されてきており、特にいこいの室においては高齢者を中心に欠かせない施設となっている。今後利用者の安全を確保しつつ、水道光熱費等の経費削減については、利用者に協力を得ながら運営していきたい。併せて、経年劣化等に伴う修繕等を計画的に実施していきたい。
今後の取組方針	施設の老朽化に伴い修繕の必要などところについては、予算の範囲内で福祉の低下にならないよう優先順位を付け今後とも努力していきたい。 福祉センターの今後の方向性と、多世代交流事業について、関係各課との検討を進めて行く。

事務事業名	20794 東部福祉センター管理運営費													
担当組織	福祉部				福祉総務課				担当	東部福祉センター				
組織コード	H30	17	01	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	03	01	06	03	01	記入日	平成30年06月15日
	H29	17	01	00		H29	01	03	01	06	03	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち										● 対象 ○ 対象外
分野	03	参加型地域福祉										
施策	18	地域福祉の推進体制づくり										
事業期間	昭和49年度～平成32年度											
根拠法令 通達等	戸田市立福祉センター条例				関連計画 施政方針	戸田市第4次総合振興計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの											
対象	市内在住、在勤・在学者											
事業目的	福祉センターの会議室等を、自主サークル活動等のために貸し出すことにより、市民の交流や文化の向上を図る。「いこいの室」等の運営により、高齢者の社会参加支援や交流を図る。											
事業内容	60歳以上の市民が利用する「いこいの室」において、映画会・カラオケ大会等を実施。また、会議室等を、市民で構成する各種サークル等に貸し出し、市民の交流と文化の向上を図る。利用者の安全に配慮し、施設設備や備品の経年劣化による不具合、故障が生じた時は、修繕や交換を適時実施していく。											
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()											

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		34,605	40,958	40,958	40,958	40,958	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	2,995	4,594	4,594	4,594	4,594	
		一般財源	31,610	36,364	36,364	36,364	36,364	
	人件費		13,242.24	16,552.8	16,552.8	16,552.8	16,552.8	
	投入 人員	常勤職員	1.92人	2.4人	2.4人	2.4人	2.4人	
		非常勤職員	0.4人	0.4人	0.4人	0.4人	0.4人	
事業費+人件費		47,847	57,511	57,511	57,511	57,511		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動 ①	開館日数	日	年間開館日数		335	334	338
						333	334	-
	成果 ①	延利用人数	人	年間貸室及びいこいの室 利用者数		100,000	105,000	103,000
						103,144	104,845	-
成果 ②							-	
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 29年度の利用人数は前年度より増加した。要因としては、予約システムが導入され、既存の団体の他に、新規団体や個人利用者が大幅に増加した事が挙げられる。30年度については、施設使用料免除廃止に伴い、利用者の借り控えが増加するものと想定されるため、目標値を見直しました。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 施設利用者数は、前年を上回り、地域福祉の目的に沿った施設運営となっている。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 施設・設備の老朽化のため、計画的に修繕を実施し、施設の維持管理に努めている。また、設備等の保守点検委託業務を定期的実施し、利用者の安全管理に努めている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 限られた予算の中で、機能回復訓練室や浴室、いこいの室を開室することで、高齢者の地域福祉向上に寄与している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	C	B	B	<判断理由> 受益者負担の公平性の観点から、戸田市立福祉センター条例の一部改正を行い、減免規定の削除を行いました。免除団体への周知期間として、住民説明会及び各種関係団体及び公民館認定サークル等へ説明を行い、周知に努めました。また、利用者からの質問や意見、要望等について、適宜適切に対応しました。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	公共施設予約システムが平成30年度に3年が経過することに伴い、利用者登録カードの更新受付業務を実施するにあたって、システム管理会社及び情報政策統計課並びにシステム導入施設所管課との業務調整を図り、適正に予約システムが運用できるよう努めた。いこいの室の利用者登録ルールを抜本的に見直した。また、高圧受電設備や受水槽の破損に伴う緊急修繕や漏水修繕など緊急を要する修繕を速やかに実施し、施設の安全管理に努めた。
見直しの効果	公共施設予約システムの稼働により、統計作業等において、業務効率化を図ることができた。いこいの室利用者登録ルールの抜本的な変更により、利用実体の把握と、利用者の安全確保のための仕組みができた。また、経年劣化に伴う施設や設備の修繕実施により、利用者が快適に利用できるようになり、同時に、利用者の安全を担保することができた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 東部福祉センターは、幅広い年齢層に利用されている施設である。また、センター内のいこいの室は高齢者を中心にニーズがあり、欠かせないものとなっている。ただし、風呂の運用については、利用者の高齢化の進行に伴う安全確保を考えながら、燃料及び水道消費量の削減について利用者の協力を呼び掛けていきたい。加えて、施設設備や備品の経年劣化が目立つため、計画的に修繕等を実施していきたい。
今後の取組方針	予算の範囲内で、福祉の低下に繋がらないよう、今後とも安全な施設管理に努める。 福祉センター利用者数の増加に伴い、光熱水費は昨年比去年増加傾向にあるが、利用者に節電、節水等の協力を更に呼び掛け、削減に努めていきたい。 福祉センターの今後の方向性と多世代交流事業について検討を進めていきたい。

事務事業名	20787 新曽福祉センター管理運営費													
担当組織	福祉部				福祉総務課				担当	新曽福祉センター				
組織コード	H30	17	01	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	03	01	06	04	01	記入日	平成30年06月01日
	H29	17	01	00		H29	01	03	01	06	04	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち										● 対象 ○ 対象外		
分野	03	参加型地域福祉												
施策	18	地域福祉の推進体制づくり												
事業期間	昭和52年度～平成32年度													
根拠法令 通達等	戸田市立福祉センター条例 戸田市立労働福祉センター条例				関連計画 施政方針	戸田市第4次総合振興計画								
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの													
対象	市内在住、在勤・在学者													
事業目的	福祉センターの会議室等を、自主サークル活動等のために貸し出すことにより、市民の交流や文化の向上を図る。「いこいの室」等の運営により、高齢者の社会参加支援や交流を図る。													
事業内容	60歳以上の市民が利用する「いこいの室」において、映画会・カラオケ大会等を実施。また、会議室等を、市民で構成する各種サークル等に貸し出し、市民の交流と文化の向上を図る。利用者の安全に配慮し、施設設備や備品の経年劣化による不具合、故障が生じた時は、修繕や交換を適時実施していく。													
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()													

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		46,152	170,306	47,300	47,300	47,300	
	財源内訳	国庫支出金	0	9,038	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	85,400	0	0	0	
		その他	0	2,248	2,070	2,070	2,070	
		一般財源	46,152	73,620	45,230	45,230	45,230	
	人件費		12,414.6	13,104.3	13,104.3	13,104.3	13,104.3	
	投入 人員	常勤職員	1.8人	1.9人	1.9人	1.9人	1.9人	
		非常勤職員	0.24人	0.6人	0.6人	0.6人	0.6人	
事業費+人件費		58,567	183,410	60,404	60,404	60,404		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動①	開館日数	日	年間開館日数		335	334	338
						333	334	-
	成果①	延利用者人数	人	年間貸室及びいこいの室 利用者数		80,000	60,000	43,000
						64,554	65,445	-
成果②						-		
目標達成 状況 の分析	<p>A：活動・成果ともに達成した。</p> <p><判断理由> 貸室の予約をシステム化したことにより、若い世代で新規に利用する団体等が増加したことや「いこいの室」において定期的 的に実施しているカラオケの利用者が増加したことで、前年度より上回ったものと思われる。なお、平成29年12月から平成30 年11月まで当館の主要な貸室であるホールは天井耐震化及びアスベスト除去工事に伴い供用を休止している。影響により平成 30年度の利用者数は前年実績を下回る見込みである。</p>							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 利用者は高齢者が多いのが現状ではあるが、子育て世代及び小学生から高齢者までの幅広い年齢層が利用していることから、地域の繋がりに貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 利用者の安全・安心を第一に考え、定期的に施設の保守点検を実施するとともに、優先順位を決めた上で、可能な限り計画的に修繕等を実施している。平成30年度は、当センターの主要な貸し室であるホールの天井改修及びアスベスト除去工事を実施する。起債を伴うため、以後の経費は増額となる。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 緊縮財政で限られた予算の中、高齢者にはカラオケ大会や映画会を開催するとともに健康器具を設置したり、福祉センターバスを巡回し風呂の利用促進を図っている。また、子どもたちには2階のロビーを開放し利用できるようにしていることで、高齢者の生きがいづくりや子どもたちの安全の確保に貢献している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	C	B	B	<判断理由> 平成30年4月1日利用分から施設使用料の減免は廃止となり、受益の公平性と負担の適正化が図られる。今後は、料金の適正化を検討する。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	公共予約システム利用者登録の更新事務について、関係各課の調整を行い運用マニュアルの整備と統一的な広報周知を実施した。いこいの室の利用者登録ルールを抜本的に見直した。平成30年4月1日から施設使用料の減免が廃止されることから、受益者負担の見直しの第一段階を達成した。現在、利用者が安心して安全な施設として利用できるよう、ホールの天井改修及びアスベスト除去工事を実施している。
見直しの効果	運用マニュアル及び統一的な広報周知により、窓口事務負担の軽減やスムーズな対応をすることができた。広報周知についても関係各課の統一対応により混乱を予防できた。いこいの室利用者登録ルールの抜本的な変更により、利用実体の把握と、利用者の安全確保のための仕組みができた。条例の一部改正に伴う施設使用料の減免廃止により、受益者負担の公平性を担保することができた。ホール天井改修及びアスベスト除去工事により、一部設備の更新と併せて、利用者の安全が確保されることとなる。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 近年、福祉センターでは幅広い年齢層が利用されており、地域住民や団体等のニーズに即した施設利用となってきた。しかし、施設の老朽化に伴い施設全般の修繕箇所が年々増加しており、経費も高額なことから、利用者の安全確保を最優先に順位付けし、少しでも予算を確保しながら、修繕や改修を実施していく必要がある。主要な貸室であるホールの吊天井を耐震天井に改修し、また吊天井裏の断熱材として吹き付けられているアスベストを除去し、同時に一部設備を更新することで、施設の安全性は大幅に向上することとなる。
今後の取組方針	施設全般の老朽化に伴い、経年劣化による修繕箇所が年々増加しているため、福祉の低下につながらないように優先順位を付けて、順次修繕をしていく。受益者負担の適正化において、使用料の見直しを今後検討していく。施設や機能のあり方を時代に合わせて見直し、多世代交流センター化を検討するとともに、多世代交流事業を先駆的に実施していく。また、指定管理者制度への移行について、施設の大規模改修の実施と併せて、関係各課との調整を進めて行く。

事務事業名	45171 上戸田地域交流広場整備事業													
担当組織	福祉部				福祉総務課				担当		福祉総務担当			
組織コード	H30	17	01	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	03	01	09	98	98	記入日	平成30年05月30日
	H29	17	01	00		H29	01	03	01	09	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補	
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち										○ 対象		
分野	03	参加型地域福祉										● 対象外		
施策	18	地域福祉の推進体制づくり												
事業期間	平成27年度～平成29年度													
根拠法令 通達等					関連計画 施政方針		戸田市上戸田福祉センター再整備基本計画							
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの													
対象	市民													
事業目的	・市民の交流や地域コミュニティ活動の場及び災害時の地域住民の避難場所及び「上戸田地域交流センター」の隔地駐車場を整備する。													
事業内容	・整備予定地は、旧上戸田福祉センター及び旧上戸田保育園の跡地。 ・整備スケジュールとしては、平成28年度に既存施設の解体、平成29年度は広場整備工事を実施（一部上戸田地域交流センターの隔地駐車場の整備）、施設整備後に近隣家屋調査を実施する。													
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()													

2. 実施結果

事業の 予算・実績			平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業内容		広場・隔地駐車場整備工事 家屋事後調査					
事業費		120,799	0	0	0	0		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0	0		
	起債	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0		
	一般財源	120,799	0	0	0	0		
人件費		13,794	0	0	0	0		
投入 人員	常勤職員	2人	0人	0人	0人	0人		
	非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人		
事業費+人件費		134,593	0	0	0	0		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動①	上戸田地域交流広場等整備工事設計業務	式	解体工事及び広場等整備工事の設計				-
	活動②	旧上戸田福祉センター解体及び広場等整備工事	式	工事、工事監理、家屋調査		1	1	-
	成果①	設計図面作成	式	解体及び広場等整備工事設計業務完了		1	1	-
	成果②							-
目標達成 状況 の分析	A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 上戸田地域交流広場等整備について平成29年度は、スケジュールどおり完成し、供用を開始した。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由>

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input checked="" type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 平成27年度設計、平成28年度着工、平成29年度7月竣工、10月使用開始した。
今後の取組方針	上戸田地域交流広場は、指定管理業者の管理により、一般利用者に周知し、利用を促進していく。

事務事業名	44327 上戸田地域交流センター管理運営事業													
担当組織	福祉部				福祉総務課				担当		福祉総務担当			
組織コード	H30	17	01	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	03	01	10	01	01	記入日	平成30年05月05日
	H29	17	01	00		H29	01	03	01	10	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補	
基本目標	02	誰もが健康でいきいきと生活できるまち										● 対象	
分野	03	参加型地域福祉										○ 対象外	
施策	18	地域福祉の推進体制づくり											
事業期間	平成27年度～平成31年度												
根拠法令 通達等					関連計画 施政方針		第5期市長公約						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	市民（市内在住、在勤、在学者）、市外												
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用しやすい地域の交流拠点として「上戸田地域交流センター あいパル」を運営する。交流やコミュニティ活動の場、あいパルの隔地駐車場として「上戸田地域交流広場 あいパル広場」を運営する。 どちらの施設とも、指定管理者による管理運営を行う。 												
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 戸田市地域交流センター・上戸田地域交流広場とも、指定管理者による運営。 指定管理期間は平成27年9月1日から平成32年3月31日（広場は平成29年8月1日から平成32年3月31日）。 駐車場設備は、指定管理者により設置し、平成29年10月から使用開始した。 												
実施主体	<input type="checkbox"/> 市による単独直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	上戸田地域交流センター及び上戸田地域交流広場の管	上戸田地域交流センター及び上戸田地域交流広場の管	上戸田地域交流センター及び上戸田地域交流広場の管	上戸田地域交流センター及び上戸田地域交流広場の管	上戸田地域交流センター及び上戸田地域交流広場の管	
	事業費	88,635	90,598	90,500	90,500	90,500	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	808	811	811	811	811
		一般財源	87,827	89,787	89,689	89,689	89,689
	人件費	13,794	13,794	13,794	13,794	13,794	
	投入 人員	常勤職員	2人	2人	2人	2人	2人
		非常勤職員	0人	0人	0人	0人	0人
事業費+人件費		102,429	104,392	104,294	104,294	104,294	

	指標名	単位	説明・算定式	H28目標	H29目標	H30目標
				H28実績	H29実績	H30実績
目標達成状況	活動①	上戸田地域交流センター開館日数	H27年9月から運営	347	347	347
	活動②			350	350	-
	成果①	上戸田地域交流センター延べ利用者数	貸室及びフリースペース利用者、講座参加者等	150,000	220,000	240,000
	成果②			220,016	244,772	-

目標達成状況の分析	<p>A：活動・成果ともに達成した。</p> <p><判断理由> 子どもから高齢者まで誰もが利用しやすい地域の交流拠点を目指して開設し、平成29年9月で開設2年を迎えた。目標を上回る、24万人を超える利用があった。</p>					
-----------	---	--	--	--	--	--

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 地域の交流拠点として、多様なニーズに対応する様々な交流・市民活動のきっかけをつくり、市民交流・生涯学習の活性化を図っている。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 指定管理者による複合施設の一体運営化により、経費削減を図っている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 指定管理者により、柔軟かつ効率的な施設運営を行っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	A：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	A	A	A	<判断理由> 施設利用料は、市の受益者負担の原則に基づき設定している。 また、公共施設予約システムにより、公平な施設予約管理を行っている。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 平成27年5月25日上戸田地域交流センター開発準備業務委託契約締結。 平成27年9月1日上戸田地域交流センター指定管理者基本協定書を締結し、指定管理者「フレンドシップ上戸田共同事業体」により、指定期間4年7カ月とし、上戸田地域交流センター「あいパル」の管理運営を行う。 平成29年度からは、「上戸田地域交流広場」及び「あいパル」第2駐車場（30台分）の管理運営が追加された。
今後の取組方針	上戸田地域交流センターの維持管理や事業運営に関するモニタリング等については、複合施設機能の関係課と連携し実施していく。将来的には、多世代が利用する交流拠点として、交流や市民活動を推進する市内公共施設の役割、適正な施設管理運営について検討していく。 また、市民ニーズに対応するために、「あいパル運営委員会」を定期的実施し、利用者目線の施設運営を実施し、幅広い世代に愛される施設を目指す。